

指定校番号	28058	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷小学校	校長	沖 章生	生徒指導主事	村上 敦
-----	-----------	----	------	--------	------

**取組事例名 『広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！〇万人！～』**

**取組のねらい『キーワード 課題発見解決能力の育成』**

- 全校児童が課題意識をもち、あいさつ運動の目標や実施方法などを考えることにより、生徒指導上の課題発見・解決能力の向上を図るとともに、児童の自主的・実践的な態度を育てる。
- 道徳の時間を活用し、「礼儀」に関する価値項目の授業を行うことで、日ごろからお世話になっている地域の方々に対する感謝の気持ちを伝えていきたいという心情を育てる。

**取組の具体的内容『キーワード 児童会による自治的な活動と道徳の時間の活用』**

**児童会による活動**

- ①児童会役員による話し合い
  - ・すすんであいさつができる学校にしたい。
- ②全校代表委員会で提案
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！ 8000人！～」（5月）
  - ・「広げようあいさつの輪大作戦～めざせ！20000人！～」（10月）
- ③各クラスで具体的な取組の話し合い
  - ・相手より先にあいさつをしよう等
- ④2週間の「あいさつ強化週間」の実施
  - ・児童会役員によるあいさつ運動
- ⑤児童会役員による集計
  - ・5月・・・13070人達成 10月・・・29795人達成
- ⑥目標達成を実感し、今後の意欲を高めるための「全校なかよし運動」の提案
  - ・運動の内容を全クラスに募集
- ⑦代表委員会での話し合いによる遊びの決定
- ⑧「全校なかよし運動」の実施（昼休憩・掃除時間）
  - ・5月 全校おにごっこ 10月 全校ドッジボール大会
- ⑨児童会役員による取組の振り返り
  - ・全校で楽しむことができてよかった。
  - ・高学年からあいさつを広げていきたい。



**道徳の時間との関連**

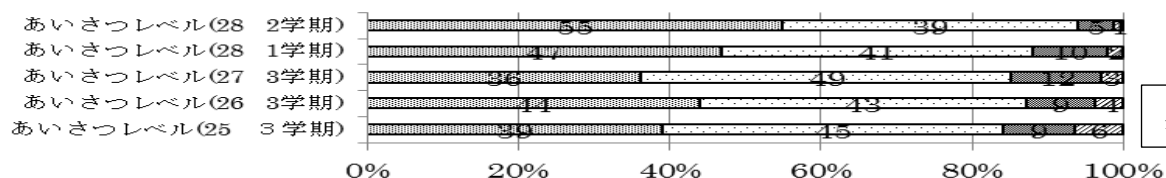
- 「あいさつ強化週間」の事前や実施中に道徳の時間での全校同時期・同価値項目の授業（礼儀）で価値の温めを図る。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 自己評価とのズレを解消する』**

**課題**

- 自己評価と地域との評価のズレ
 

学期末の生活アンケートでは、1学期89%、2学期94%の児童があいさつができていると解答しているが、地域からは、「あいさつをしても返さない児童がいる」「もっと本郷小学校の児童はあいさつができている」と意見が寄せられた。また、教職員の評価でも、「まだまだ十分あいさつができているとは言えない」という意見が多かった。（グラフ①）



○取組期間中は、あいさつをする児童が増えるが、終了するとあいさつができない児童が増えてしまう。

#### 創意工夫

○自己評価と他者評価のズレを解消するため、普段の始業・終業のあいさつ（号令）の声の出し方、姿勢などを各クラス徹底して指導していった。

○取組期間が終了しても、進んであいさつができる児童を積極的に評価していく。

○「広げようあいさつの輪大作戦」の取組や課題・成果について「生徒指導だより」にて、家庭・地域へ発信していく。

#### 取組の成果（効果）『キーワード 児童の変容』

○4月当初に比べ、あいさつをする児童が大幅に増えてきている。また、生活アンケートによる「自分にはいいところがある」と答えた児童の中に、「あいさつが進んでできることが自分のいいところである」と答えた児童が多くいた。

○児童会役員の児童や6年生の児童の中でも、「自分たちであいさつができる学校を作っていきたい」という課題意識をもつ児童が増えてきた。また、クラスでの話し合いでも、「どのようにすればいいか」「自分たちにできることは何か」という課題を解決しようとする発言が見られるようになってきた。

#### 今後の展開『キーワード 学校・家庭・地域の三つ巴の体制作り』

○より児童の主体的な活動となるように支援していく。また、あいさつだけでなく、「学校の課題を児童の創意工夫により解決させる」自治的な活動を仕組んでいく。

○地域・家庭とも連携し、「地域の子どもたちと一緒に育てていく」という視点を持ち、本校の校章（小早川家の家紋）でもある学校・家庭・地域の「三つ巴」の協力体制の構築に努めていく。

○児童による自己評価と地域・家庭との評価に「ずれ」があるため、地域・家庭へのアンケートを実施し、その評価を児童へ返していくことにより、高い目標を持たせ、児童の主体的に実践しようとする態度を高めていく。



#### 他校へのアドバイス『キーワード 教職員主導からの脱却』

○教職員主導の取組から、児童の主体的な活動に変えていくことで、児童は課題意識をもち、意欲的に活動していく。学校の課題を児童と共有し、児童とともによりよい学校を作っていく必要性を強く感じている。

○学校・家庭・地域のすべてが一緒になってともに地域の宝である「子ども」を育てていくという姿勢が大切にし、これからも児童の育成に努めていきたい。